

**10. ブリ資源培養技術開発試験
(平成3・4年度)**

ブリ種苗放流技術開発調査（平成3年度）

漁場環境科 田ノ本明彦

日本栽培漁業協会から委託された「ブリ種苗放流技術開発事業」の一環として、ブリ幼魚期の分布生態を究明するために、前年度に引き続いて標識放流を中心とした調査を実施した。

I 方 法

1. 標識放流調査

人工種苗ブリ幼魚 12,992 尾の標識放流を実施した。標識放流の概要を表 1 に、放流位置と海区の区分を図 1 にそれぞれ示した。

表 1 平成3年度標識放流の概要

	第 1 回放流群	第 2 回放流群	第 3 回放流群
年 月 日	3. 7. 11	3. 8. 1	3. 8. 7
尾 数	人工種苗 9,441 尾	人工種苗 2,715 尾	人工種苗 836 尾
魚 体	FL 14.7 cm, BW 42 g	FL 15.8 cm, BW 51 g	FL 15.7 cm, BW 50 g
標識の種類	アンカータグ型 KO3 (赤)	アンカータグ型 KO3 (青)	アンカータグ型 KO3 (白)
放 流 場 所	須崎市池ノ浦地先	土佐市宇佐白ノ鼻地先	土佐市宇佐白ノ鼻地先

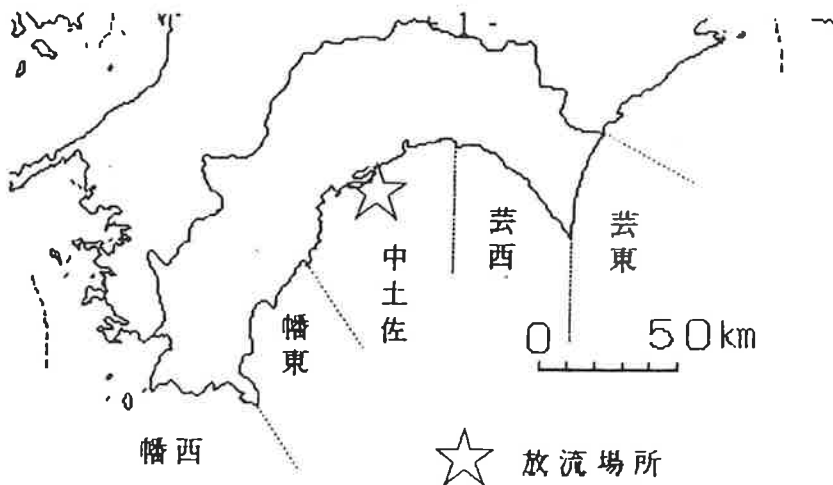


図 1 標識放流地点と海域区分

2. 漁獲量調査

土佐清水市足摺岬釣鯨組合及び県下大敷組合のブリ漁獲量調査を実施した。また、ブリ当歳魚については、大月町古満目、土佐清水市以布利、窪川町興津、奈半利町加領郷の各漁協において漁獲量調査を実施した。



図2 漁獲量調査漁協位置図

II 結果及び考察

1. 標識放流調査

(1) 第1回(7月11日)放流群

海域及び経過日数別再捕経過を表2及び図3に示した。

再捕尾数は37尾、再捕率は0.4%と低い値であった。再捕はすべて放流地点より西方の海域で、放流地点周辺の中土佐海域では36尾が再捕され、その他の海域では放流後10日目に約90km離れた幡東海域の土佐清水市以布利で小型定置網により1尾が再捕されたのみである。また、最も日数の経過した再捕魚は、放流後33日後に野見湾で漁獲されたもので、その後の再捕報告はない。

表2 平成3年第1回放流群の再捕経過

単位：尾

再捕年月日	経過日数	再捕海域				
		幡西	幡東	中土佐	芸西	芸東
H3. 7. 17	6			1		
7. 19	8			4		
7. 20	9			7		
7. 21	10		1	10		
7. 22	11			1		
7. 25	14			4		
8. 1	21			2		
8. 3	23			4		
8. 5	25			2		
8. 13	33			1		
計			1	36		

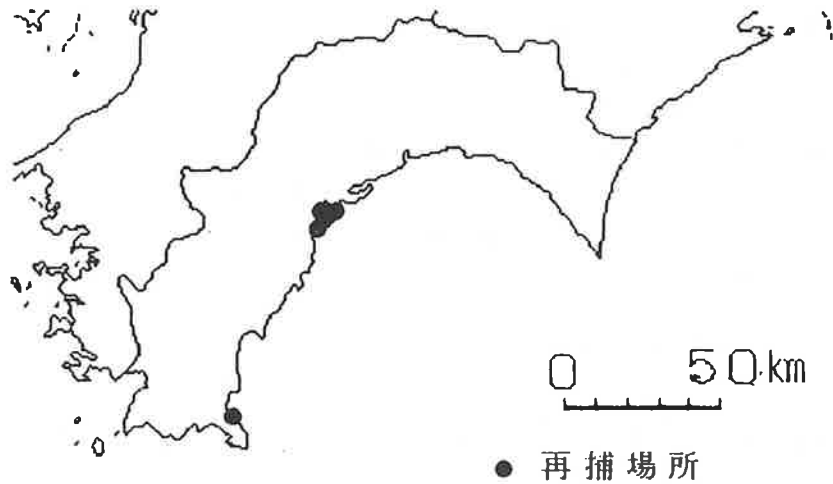


図3 第1回放流群再捕場所

(2) 第2回（8月1日）放流群

海域及び経過日数別再捕経過を表3及び図4に示した。

再捕尾数は3尾、再捕率は0.1%と第1回放流群よりさらに低い値であった。再捕はすべて放流地点から西方の野見湾で漁獲された。放流25日後に釣りで漁獲されたのを最後にその後の報告はない。

表3 平成3年第2回放流群の再捕経過

単位：尾

再捕年月日	経過日数	再捕海域					
		幡西	幡西	中土佐	芸西	芸東	
H3. 8. 13	12			2			
8. 26	25			1			
計				3			

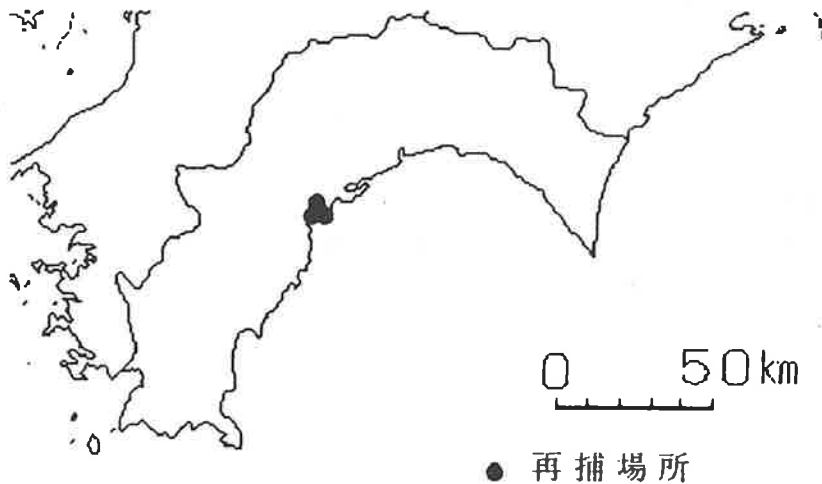


図4 第2回放流群再捕場所

(3) 第3回(8月7日)放流群

現在のところ再捕報告はない。

(4) 漁具・漁法別再捕状況

漁具・漁法別及び海域別漁具・漁法別再捕状況を表4、5に示した。

漁法別再捕数では、大型定置網10尾(25%)、小型定置網25尾(63%)、釣4尾(10%)、不明1尾(2%)で定置網による漁獲が最も多く、全体の9割近くを占めている。

また、幡東海域で再捕された1尾については、小型定置網での漁獲であった。

表4 漁法別・経過日数別再捕状況

単位：尾

経過日数 放流日 漁法	7月11日					8月1日					8月7日					計
	大型定置	小型定置	曳縄	釣	不明	大型定置	小型定置	曳縄	釣	不明	大型定置	小型定置	曳縄	釣	不明	
1～10	10	12		1												23
11～20		7					2									9
21～30		3		2	1				1							7
31～40		1														1
計	10	23	0	3	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	40

表5 海域別・漁法別・経過日数別再捕状況

単位：尾

経過日数 放流域 漁法	幡 東					中 土 佐					計
	大型定置	小型定置	曳縄	釣	不明	大型定置	小型定置	曳縄	釣	不明	
1～10		1				10	11		1		23
11～20							9				9
21～30							3		3	1	7
31～40							1				1
計		1				10	24		4	1	40

2. 漁獲量調査

飼付けを行っている県西部の土佐清水市足摺岬釣鯨組合の平成3年度漁獲尾数を表6及び図5に、昭和58年度からの銘柄別漁獲尾数の推移を図6にそれぞれ示した。また、県下大敷きの漁獲尾数を表7、図7、8に、県下4漁協におけるブリ当歳魚の漁獲尾数を表8にそれぞれ示した。

平成3年度の飼付けの漁獲状況は、昨年度に比べ全体の漁獲尾数は約28%増加しているが、これは特に5kgサイズのメジロ級(3～6kg)の漁獲が10月、11月にあわせて、2,500尾ほどあったことによるものであるが、その反面ブリ級(6kg以上)の漁獲は逆に昨年の約40%の約1,000尾に減少している。

表6 足摺岬釣鰺組合におけるブリ漁獲状況

	1 kg 未満	1 ≦	2 ≦	3 ≦	4 ≦	5 ≦	6 ≦	7 ≦	8 ≦	9 ≦	10 ≦	11 ≦	計
9 月	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3
10 月	0	0	5	146	104	1,302	160	44	19	4	5	1	1,790
11 月	0	0	3	250	242	1,177	290	108	45	21	8	2	2,146
12 月	0	0	0	225	92	186	101	64	36	13	3	3	723
小 計	0	0	8	621	438	2,666	552	216	100	39	16	6	4,662
1 月	0	0	0	100	218	58	79	42	13	2	2	3	517
2 月	0	0	0	3	37	9	2	0	0	0	0	0	51
3 月												0	0
小 計	0	0	0	103	255	67	81	42	13	2	2	3	568
合 計	0	0	8	724	693	2,733	633	258	113	41	18	9	5,230

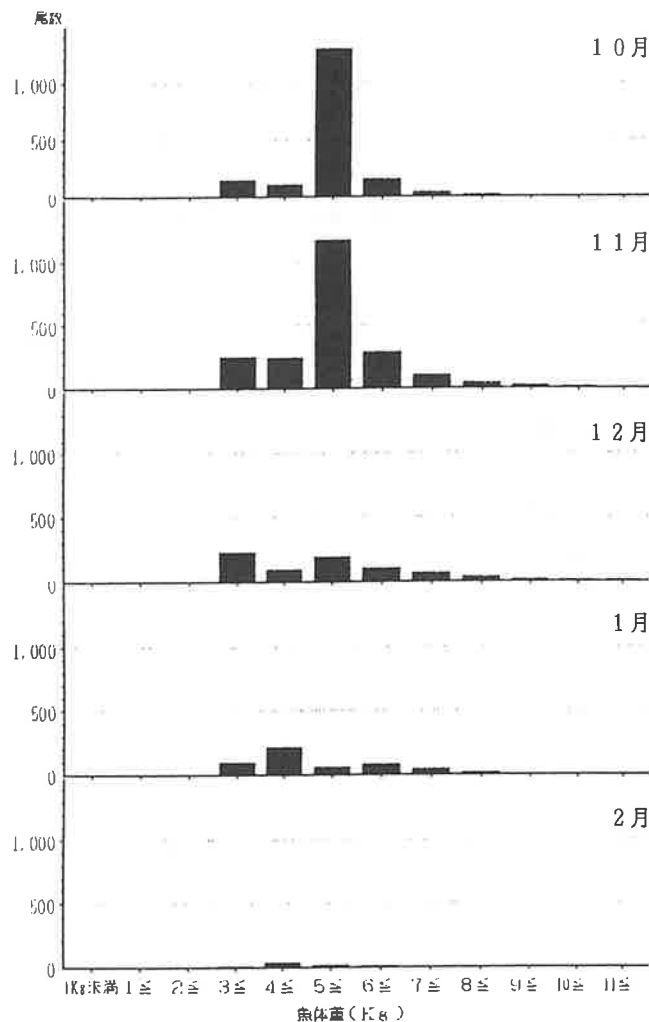
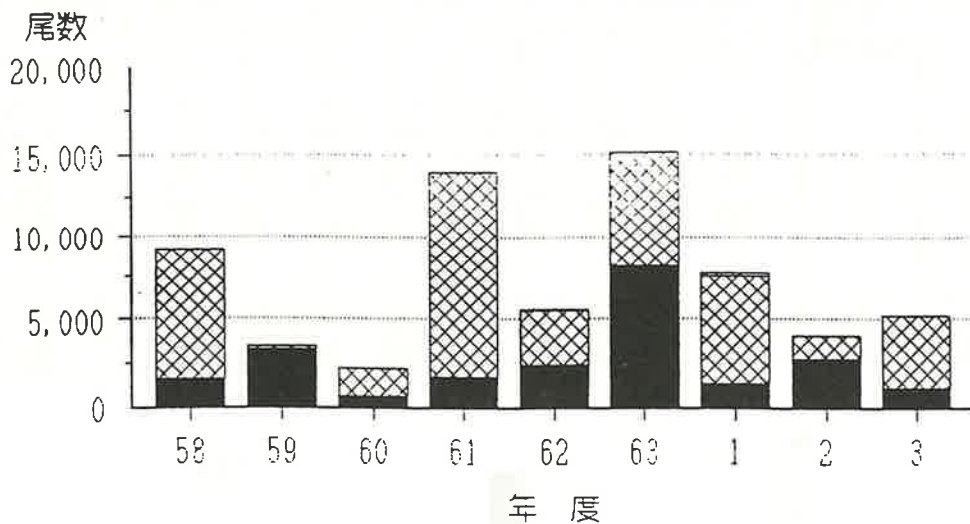


図5 月別漁獲尾数の推移（足摺岬釣鰺組合）



■ブリ(6kg以上) ☒メジロ(3~6kg) ▨ハマチ(3kg未満)

図6 銘柄別漁獲尾数の推移(足摺岬釣鯊組合)

県下大敷によるブリ漁獲状況を見ると、ハマチ級が23,392尾、メジロ級が16,305尾、ブリ級が35,585尾、合計で昨年度に比べ12%減の75,282尾の漁獲であった。これは、ハマチ級、メジロ級では微増であったが、ブリ級では約30%の減少であったことによる。

表7 大型定置網によるブリ漁獲状況(大敷組合の報告による)

体重 月	1kg 未満	1 ≦	2 ≦	3 ≦	4 ≦	5 ≦	6 ≦	7 ≦	8 ≦	9 ≦	10 ≦	11 ≦	計
12月	110	3,489	1	148	8	13	21	5	501	22		2	4,320
1月	13	157		65	36	13	4	30	17	4	8	29	376
2月	10	1,339	3	16	63	27	12	43	13	4,603	602	3,105	9,836
3月		457		21	49	1,464	65	56	10,269	4,136	980	136	17,633
4月	1	6,535	476	21	407	10,932	217	106	222	1,311	1	2	20,231
5月		9,881	920	212	1,685	1,125	2,930	1,584	3,625	860	34	30	22,886
計	134	21,858	1,400	483	2,248	13,574	3,249	1,824	14,647	10,936	1,625	3,304	75,282

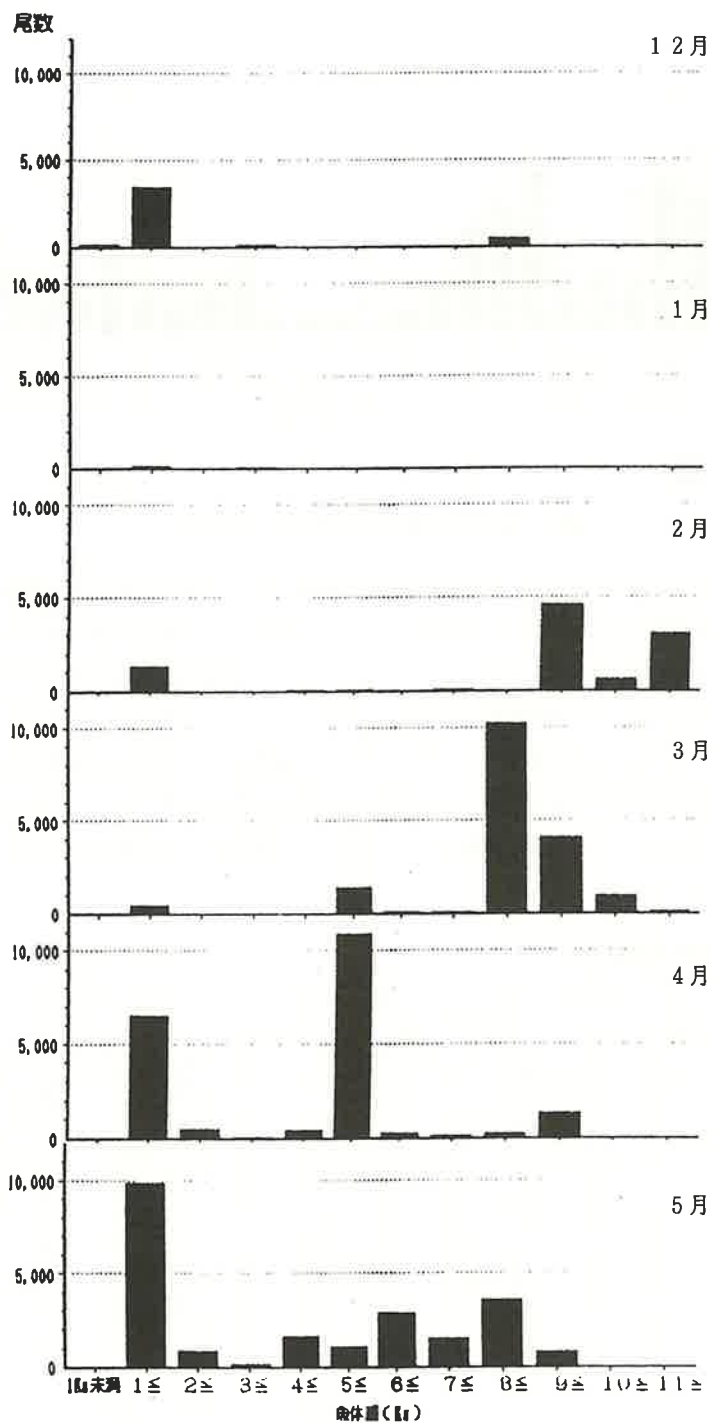
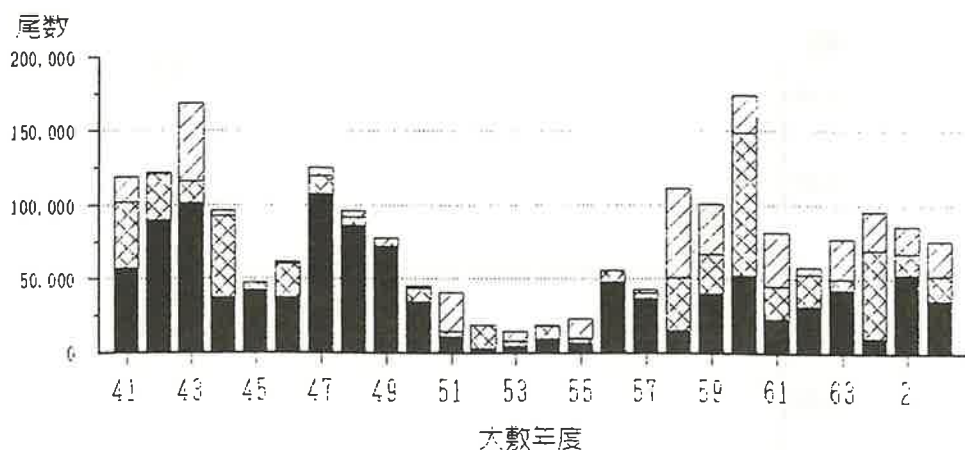


図7 月別漁獲尾数の推移（県下大数組合）



■ブリ(6Kg以上) ☒メジロ(3~6Kg) ☑ハマチ(3Kg未満)

図8 銘柄別漁獲尾数の推移(県下大数)

つぎに当歳魚の漁獲を見ると、県西部の古満目漁協では8月末から当歳魚の漁獲がみられ、9月には尾叉長35cm程度のものが約14,000尾、7.5トン、12月には尾叉長40cmのものが約35,000尾、31トンと近年にない当歳魚の水揚げであった。また、同じく県西部にある以布利漁協でも7月頃から当歳魚の漁獲が見られ、20cm程度のものが約14,000尾、8月には尾叉長28~29cmのものが約21,000尾の漁獲がみられた。また、調査した4漁協において漁獲された放流魚は放流後10日目の7月21日に、土佐清水市以布利で小型定置網により尾叉長15.5cm、体重46gのもの1尾が漁獲されたのみである。なお、再捕当日に同漁法で漁獲された天然ブリ当歳魚は、尾叉長約18~19cm、体重約80gのものが約200尾であった。

表8 当歳ブリ漁獲調査結果

		加 賀 郷			興 津					以 布 利			古 満 目	
		大 定 置	釣	計	大 定 置	小 定 置	釣	刺し網	計	大 定 置	小 定 置	計	大 定 置	計
H 3.	漁獲尾数	0	0	0	0	3,742	0	0	3,742	14,363	3,931	18,294	2	2
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
8	漁獲尾数	0	0	0	0	571	0	0	571	21,281	0	21,281	869	869
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	漁獲尾数	0	0	0	0	200	20	0	220	8,836	0	8,836	14,323	14,323
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	漁獲尾数	0	97	97	3	28	0	0	31	4,339	0	4,339	7,252	7,252
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	漁獲尾数	0	57	57	585	3	6	0	594	0	0	0	34,869	34,869
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	漁獲尾数	0	0	0	110	3	0	5	118	0	0	0	7,982	7,982
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H 4.	漁獲尾数	0	0	0	56	11	0	0	67	0	0	0	0	0
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	漁獲尾数	0	0	0	9	1	0	0	10	0	0	0	2	2
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	漁獲尾数	0	0	0	93	6	0	3	102	0	0	0	0	0
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	漁獲尾数	0	154	154	856	4,565	26	8	5,455	48,819	3,931	52,750	65,299	65,299
	標 識 魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0

3. その他

今回も再捕率が低い値であったが、再捕率については放流海域、放流時の魚体、潮流、水温等の環境、標識の脱落等様々な要因が考えられるが、今回は放流時の魚体について、その他の要因については違いはないものとして検討してみた。図9に土佐湾中央部で今までに放流した放流魚の平均尾叉長と再捕率とを示した。また、土佐湾中央部にある浦ノ内湾内での放流、及び昭和37年に高知水試が実施した標識放流の結果も参考として示した。

いままで放流した人工種苗では、放流時の尾叉長が12～16cmでは0.1～1.5%に留まっているが、尾叉長18.3cmでは再捕率が3.2%、尾叉長が28cmのものでは再捕率23.2%と一番高い数字になっている。昭和37年放流群を見ると、やはり魚体が大きくなるほど再捕率は高くなっている。しかし、浦ノ内湾内で放流したものは魚体の大きさにかかわらず再捕率は低かった。

今後、魚体の大きさのみでなく、様々な側面から、放流魚の再捕率の低さに対する検討が必要である。

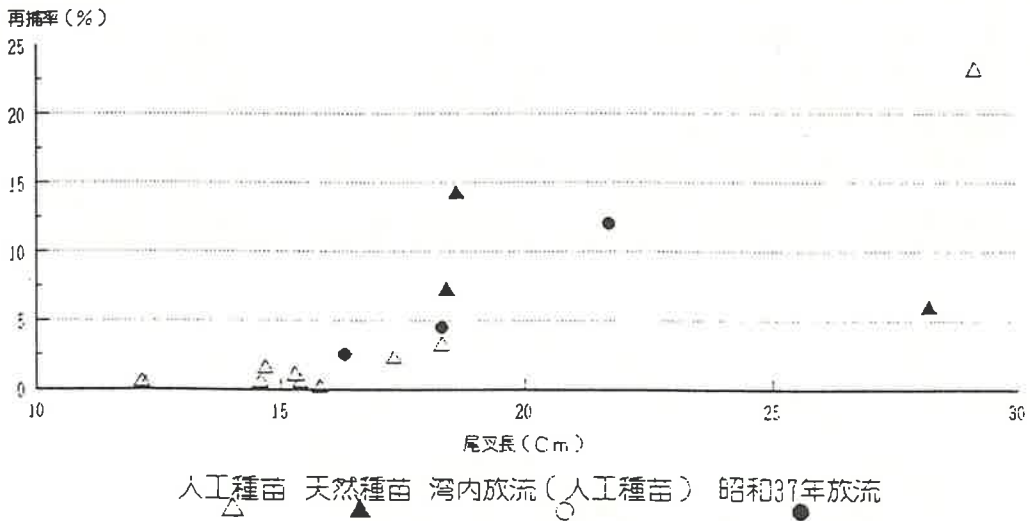


図9 放流時の尾叉長と再捕率

ブリ種苗放流技術開発調査（平成4年度）

海洋資源科 山本 貞夫

日本栽培漁業協会から委託された「ブリ種苗放流技術開発事業」の一環として、ブリ幼魚期の分布生態を究明するために、前年度に引き続いて標識放流を中心とした調査を実施した。

I 方 法

1. 標識放流調査

人工種苗ブリ幼魚 12,052 尾、天然種苗ハマチ 679 尾の標識放流を実施した。標識放流の概要を表 1 に、放流位置と海区の区分を図 1 にそれぞれ示した。

表 1 平成4年度標識放流の概要

	第1回放流群	第2回放流群	第3回放流群
年 月 日	4. 7. 15	4. 7. 21	4. 12. 8
尾 数	人工種苗 6,947 尾	人工種苗 5,105 尾	天然種苗 697 尾
魚 体	FL 16.0 cm	FL 16.7 cm	FL 36.5 cm
(平均)	BW 57.0 g	BW 63.5 g	BW 900 g
標識の種類	アンカータグ型	アンカータグ型	アンカーチューブ
(尾数)	KO4(赤) 4,965 尾 KO4(白) 1,982 尾	KO3(青) 5,105 尾	KO4※※※ 346 尾 ダート型(白) 333 尾
放 流 場 所	土佐市宇佐白ノ鼻地先	土佐市宇佐白ノ鼻地先	須崎市池ノ浦地先

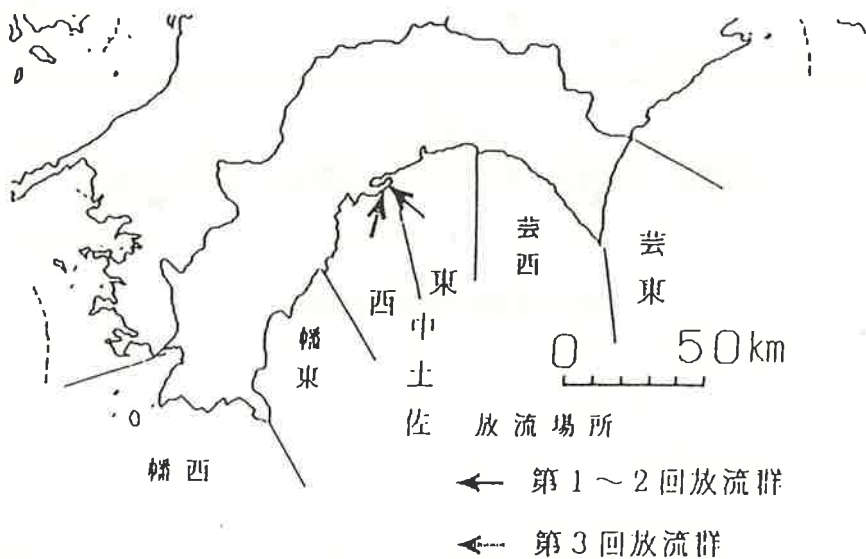


図 1 標識放流地点と海域区分

2. 漁獲量調査

土佐清水市足摺岬釣鰯組合及び県下大敷組合（20組合、25漁場）、水揚げ地におけるブリ漁獲量調査を実施した。また、ブリ当歳魚については、大月町古満目、土佐清水市以布利、窪川町興津、室戸市室戸岬の各漁協において漁獲量調査を実施した。

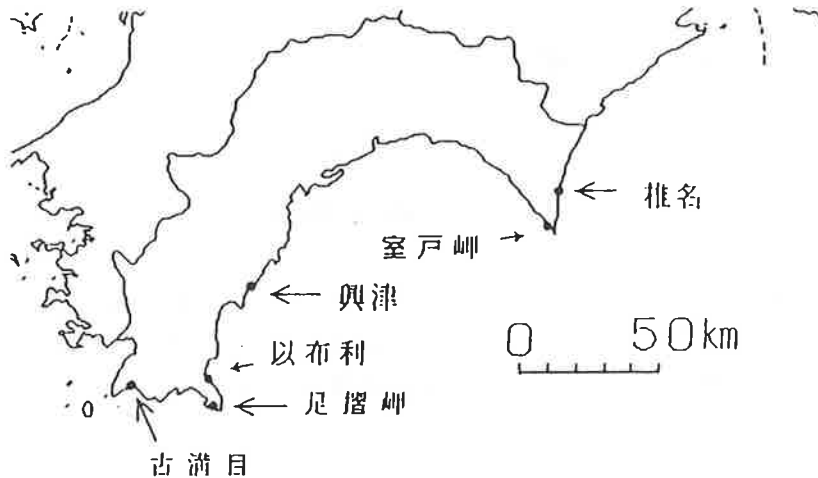


図2 漁獲調査漁協等位置図

II 結果及び考察

1. 標識放流調査

(1) 第1回放流群（7月15日）

海域及び経過日数別再捕経過を表2及び図3に示した。

表2 平成4年度第1回放流群の再捕経過

単位：尾

再捕年月日	経過日数	海 域				
		幡 東	中土佐西	中土佐東	芸 西	不 明
H4 7. 16	1		27			
7. 17	2	2				
7. 18	3	1	18			
7. 21	6		3		1	
7. 22	7		1			
7. 24	9	1				
7. 27	12			2		
7. 30	15		2			
8. 1	17		1			
8. 11	27		1			
9. 5	52	1				1
計		5	53	2	1	1

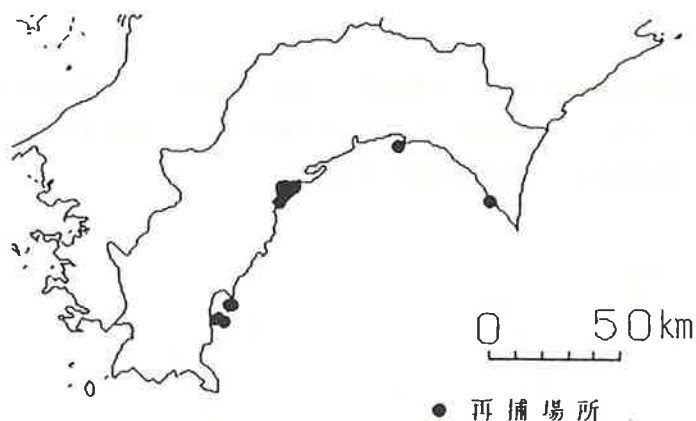


図3 第1回放流群再捕場所

再捕尾数は62尾，再捕率は0.9%と低い値であった。再捕は58尾が放流地点より西方，3尾が東方，1尾が海域不明となっており，放流地点周辺の中土佐海域では55尾が再捕されている。また，最も日数の経過した魚は，放流52日後に大方町灘沖で再捕されたもので，その後の報告はない。

(2) 第2回放流群（7月21日）

海域及び経過日数別再捕経過を表3及び図4に示した。

表3 平成4年度第2回放流群の再捕経過

単位：尾

再捕年月日	経過日数	海 域				
		幡 東	中土佐西	中土佐東	芸 西	不 明
H4. 7. 28	7		7			
7. 30	9		3			
8. 2	12		5			
8. 4	14		2			
計			17			

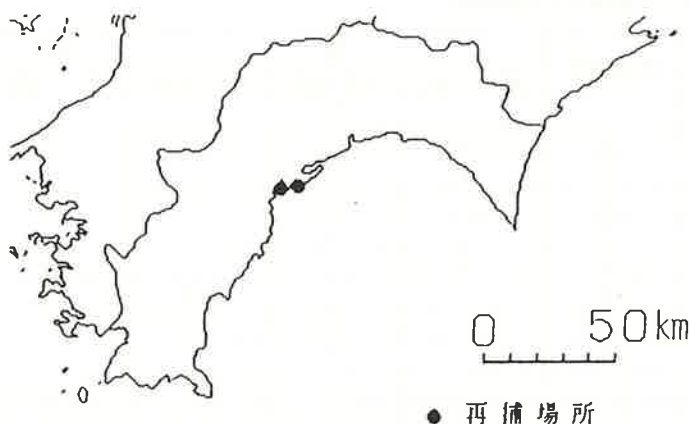


図4 第2回放流群再捕場所

再捕尾数は17尾、再捕率は0.3%と第1回放流群よりさらに低い値であった。再捕は、すべて放流地点から西方で比較的近くの定置網で漁獲された。放流14日後に野見湾で漁獲されたのを最後にその後の報告はない。

(3) 第3回放流群（12月8日）

海域及び経過日数別再捕経過を表4及び図5に示した。

表4 平成4年度第3回放流群の再捕経過

単位：尾

再捕年月日	経過日数	海 域				
		幡 東	中土佐西	中土佐東	芸 西	不 明
H4. 12. 9	1		5			
12. 10	2		4	3		
12. 11	3		5			
12. 14	6		5	1		
12. 15	7				1	
12. 20	12		1			
12. 25	17				1	
H5. 1. 8	31			1		
1. 12	35			1		
1. 17	40		1			
計			21	6	2	

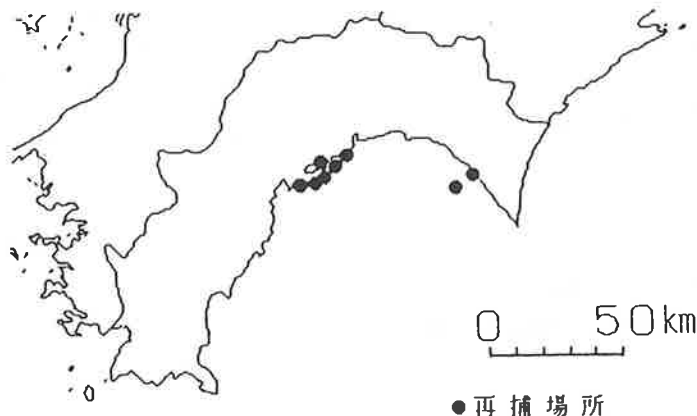


図5 第3回放流群再捕場所

再捕尾数は29尾、再捕率は4.3%と人工種苗放流群より高い値であった。再捕は21尾が放流地点より西方、8尾が東方で、放流地点周辺の中土佐海域ではそのほとんどの27尾が再捕されている。放流40日後に放流地点付近で漁獲されたのを最後にその後の報告はない。

(4) 漁具・漁法別再捕状況

漁法別・経過日数別及び海域別・漁法別・経過日数別再捕状況を表5、6に示した。

漁法別再捕数では、大型定置網82尾（75.9%）、小型定置網8尾（7.4%）、釣り8尾（7.4%）、曳縄5尾（4.6%）、パッチ網（機船船ひき網）（3.7%）、不明1尾（0.9%）で定置網による漁獲が最も多く、全体の約85%を占めている。

表5 漁法別・経過日数別再捕状況

単位：尾

放流日	7月15日※					7月21日					12月8日					計
漁法	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	
1～10	50		2	2		7	3				19	1		1	3	88
11～20		2		3		5	2						1	1		14
21～30				1												1
31～40													2		1	3
41～50																0
51～60				1												1
計	50	2	2	7	0	12	5	0	0	0	19	1	3	2	4	107

※52日目で不明1尾

表6 海域別・漁法別・経過日数別再捕状況

単位：尾

海 域	幡 東					中土佐西					中土佐東					芸 西					計
漁 法	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	大型 定置	小型 定置	曳 縄	釣	パ ッ チ 網	
1～10			2	2		75	3							1	3	2					88
11～20						5	4	1	1					2					1		14
21～30									1												1
31～40								1					1		1						3
41～50																					0
51～60				1																	2
計	0	0	2	3	0	80	7	2	2	0	0	0	1	3	4	2	0	0	1	0	107

※52日目で不明1尾

2. 漁獲量調査

(1) 飼付け漁業のブリ漁獲量

県西部の土佐清水市足摺岬釣鯨組合の平成4年度のブリ漁獲尾数を表7に、月別漁獲尾数の推移を図6に示した。

表7 ブリ漁獲量（飼付け：足摺岬釣鯨組合）

単位：尾

年 月	重量計	尾数計	～1 kg	1～2 kg	2～3 kg	3～4 kg	4～5 kg	5～6 kg	6～7 kg	7～8 kg	8～9 kg	9～10 kg	10～11 kg	11～12 kg	12～13 kg	13～14 kg	14～15 kg	15kg～
H4. 9		22	—	—	—	1	4	14	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10		3,627	—	—	20	1,932	505	1,011	118	21	14	5	1	—	—	—	—	—
11		3,959	—	—	25	261	710	2,141	624	125	43	24	3	1	2	—	—	—
12		1,381	—	—	—	7	43	507	573	191	45	11	3	1	—	—	—	—
H5. 1		860	—	—	—	—	17	153	359	213	84	25	7	1	—	1	—	—
2		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
今年（H4）	51,633	9,849	0	0	46	2,204	1,289	3,814	1,675	550	186	65	14	3	2	1	0	0
前年（H3）	28,266	5,230	0	0	0	8	724	693	2,733	633	258	113	41	18	7	2	0	0
平年 ※	38,446	7,657	0	2	34	880	2,665	1,362	1,325	758	364	159	65	24	12	4	2	1

※平年は、S58～H2の平均値

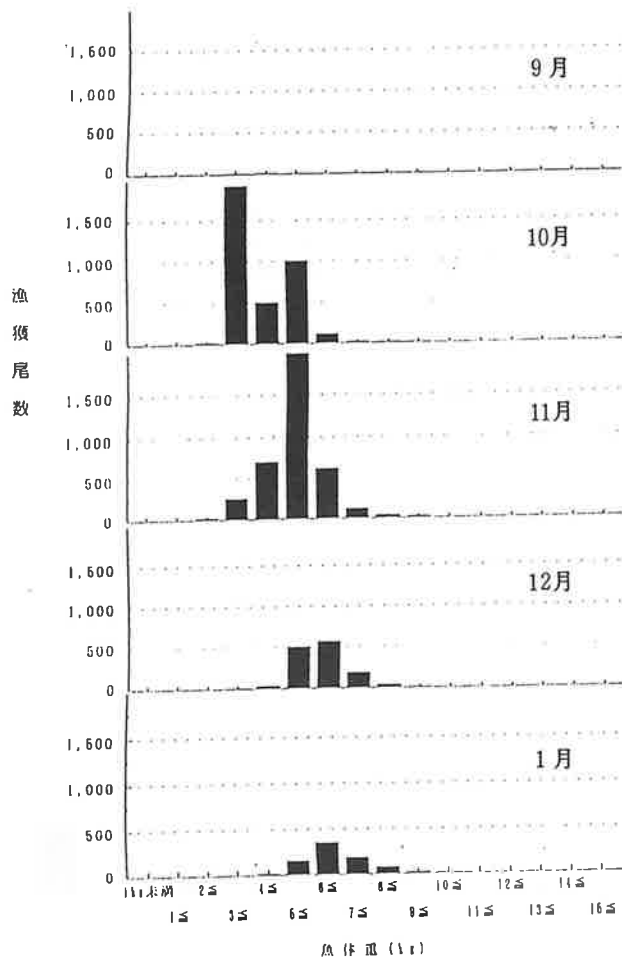


図6 月別漁獲尾数の推移（足摺岬釣鯺組合）

平成4年度は、9月28日から漁獲が始まり、12月までの4カ月で漁獲尾数は約9,000尾であり、既に前年度を約3,800尾越えている。これは、3～5kg級のメジロの漁獲が10～11月に、6kg級のブリの漁獲が11～12月に多かったためである。

また、図6を見ると、10月は3kg級のメジロ、11月は5kg級のメジロ、12月は5kg級のメジロ及び6kg級のブリと漁獲される魚体が大きくなっている。

(2) 大型定置網のブリ漁獲量

県下大敷組合（20漁協、25漁場）の月別漁獲状況を表8、図7に、県西部の大月町古満目漁協、中西部の窪川町興津漁協、県東部の室戸市室戸岬及び椎名漁協の月別漁獲状況を図8に示した。

県下大敷組合では、ハマチ級は前年、平年を下回ったが、メジロ級が前年を上回り平年並み、ブリ級は平年、前年を上回った。今期は幡多漁場で2月中旬から3月にかけて11～12kg級の大型の入網が目立ったが、芸東漁場では終始7～9kgの中ブリ、メジロ級主体の入網であった。

表8 大型定置網によるブリ漁獲尾数（県下大敷組合の報告による）

単位：尾

年 月	合 計	1kg未満	1kg級	2kg級	3kg級	4kg級	5kg級	6kg級	7kg級	8kg級	9kg級	10kg級	11kg以上	漁場数
H4.12	1,058	0	974	0	1	11	18	45	4	5	0	0	0	20組合 25漁場
H5. 1	470	0	323	1	3	40	1	29	20	28	23	0	2	
2	6,574	0	624	0	0	7	12	3	114	1,115	221	37	4,441	
3	12,149	0	812	0	0	52	1,350	56	2,253	4,208	70	298	3,050	
4	37,976	0	3,244	1,292	11	2,710	5,620	6,878	11,209	2,544	3,184	1,117	167	
5	31,337	0	22	81	6	6,509	11,505	9,263	1,810	1,554	567	7	13	
尾数計(尾)	89,564	0	5,999	1,374	21	9,329	18,506	16,274	15,410	9,454	4,065	1,459	7,673	
重量計(kg)	589,481	0	9,673	2,793	73	40,366	96,745	102,683	111,442	79,142	38,073	14,986	93,505	
前年(尾)	75,282	134	21,858	1,400	483	2,248	13,574	3,249	1,824	14,647	10,936	1,625	3,304	
平年(尾)	88,287	1,252	18,029	4,282	8,091	10,273	11,221	7,729	8,896	14,106	2,473	1,266	669	

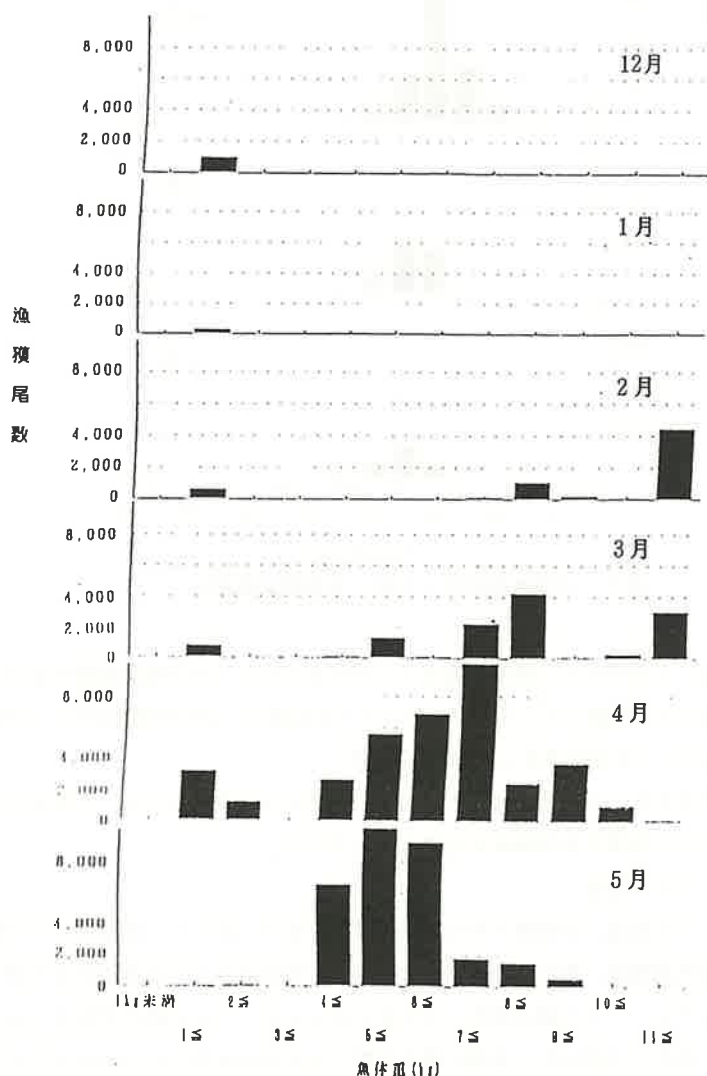


図7 月別漁獲尾数の推移（県下大敷組合）

古満目漁協では、5～6月に4～5kg級のメジロが約14t、6～9kg級のブリが約10t、4月に2kg、9月に900g前後のハマチがそれぞれ約5t漁獲されている。

椎名漁協では、古満目漁協とほぼ同程度の漁獲量となっているが、4月にそのほとんどが漁獲されており、中でも4～5kg級のメジロが約48tとなっている。

興津漁協では、4～6月及び10～3月に、室戸岬漁協では4～6月及び3月に漁獲がみられるが、低調である。

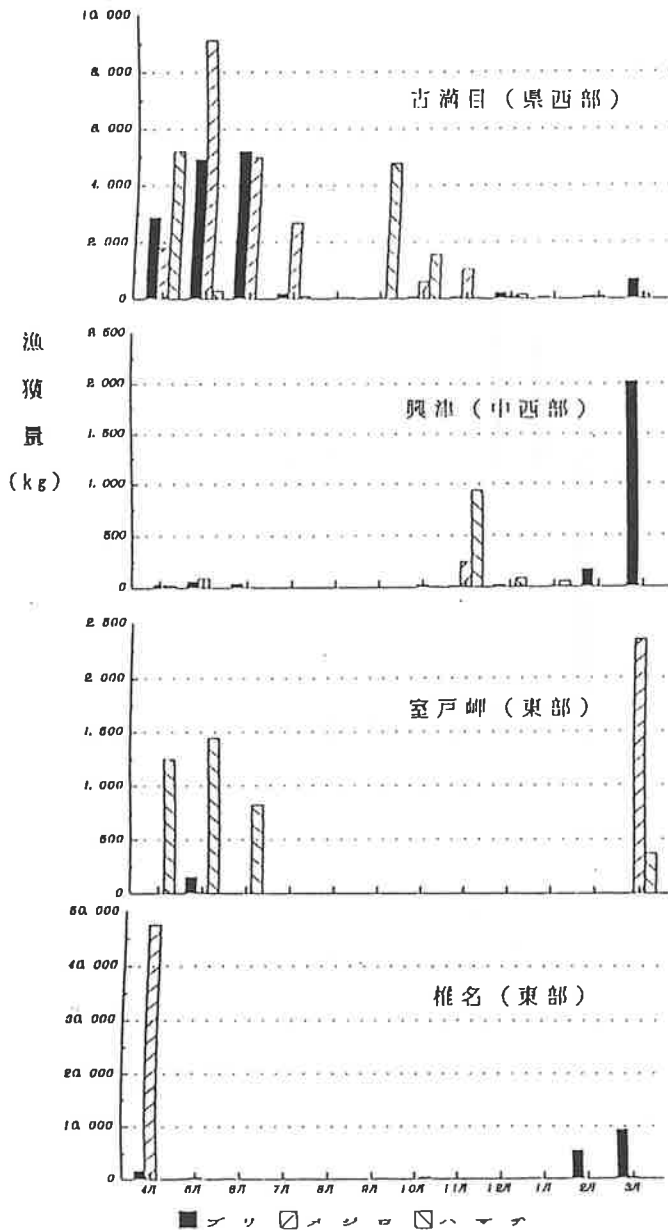


図8 月別漁獲状況（大型定置網）

(3) 釣りブリの漁獲量

興津漁協、室戸岬漁協、椎名漁協の釣りによる漁獲状況を図9に示した。

釣りによるブリの漁獲は、各漁協とも低調であるが、室戸岬漁協では6～7月に8～9kg級のブリ約2t、5～6月に4～5kg級のメジロが約1.5tとなっている。

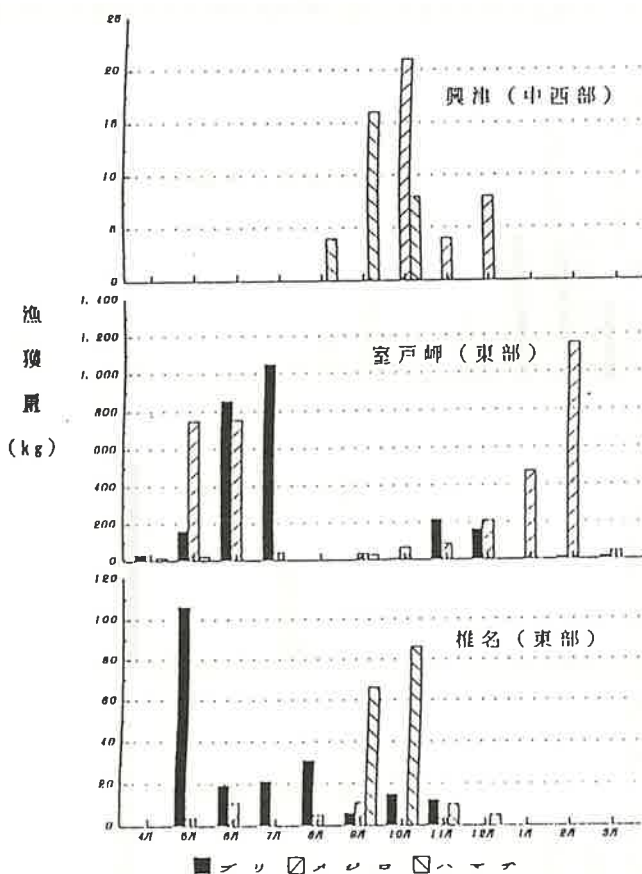


図9 月別漁獲状況(釣り)

ところで、室戸岬周辺は、数名が乗り合わせる遊漁船が多く、秋から冬は4kg前後のメジロを対象に出漁している。その状況を聞き取りによる推定で表9に示した。

表9 室戸岬遊漁船によるブリ漁獲状況(聞き取りによる推定)

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延遊漁船数	265	1,157	913	622	197	29	3,183
出漁日数	17	28	28	28	21	8	130
漁獲尾数	467	4,278	2,934	3,975	812	88	12,554
推定漁獲量	1,868	17,112	11,736	16,110	3,492	378	50,696

※1. 単位：隻，日，尾，kg

2. 1尾の重量は3～5kg

それによると、10月から釣れはじめ、1月からは1日に平均して30～40隻が出漁し、平均して1隻あたり5尾前後のメジロを釣っている。

(4) 当歳ブリ漁獲調査

当歳ブリ漁獲調査の結果を表10に示した。

県西部の古満目、以布利とともに前年（65,229尾、52,750尾）を大きく下回った。また、調査した4漁協では、標識魚の漁獲はみられなかった。

表10 当歳ブリ漁獲調査結果

単位：尾

年月	漁協 漁法	室戸岬			興津				以布利		古満目		合計
		大型 定置	釣り	計	大型 定置	小型 定置	釣り	計	大型 定置	計	大型 定置	計	
H4. 8	漁獲尾数	0	0	0	0	12	1	13	22	22	0	0	35
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	漁獲尾数	0	41	41	0	349	10	359	5,945	5,945	161	161	6,506
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	漁獲尾数	0	0	0	1	0	2	3	0	0	3	3	6
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	漁獲尾数	0	2	2	782	4	0	786	0	0	17	17	801
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	漁獲尾数	0	0	0	69	87	0	156	0	0	62	62	218
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H5. 1	漁獲尾数	0	0	0	43	0	0	43	0	0	0	0	43
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	漁獲尾数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	漁獲尾数	242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	242
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	漁獲尾数	242	43	285	895	452	13	1,360	5,967	5,967	249	249	7,861
	標識魚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. その他

調査船による7月及び12月上旬の土佐湾の流況観測結果を図8、9に示した。

7月は他の情報からもほぼ西向きの強い流れが卓越しており、12月は流速はあまりないものの放流地点付近で東西に分かれた流況となっている。

第1回放流群では、放流後3日以内に48尾すべてが放流地点より西方の海域で再捕され、第3回放流群では17尾が同様な結果となっている。

また、放流地点から再捕地点までの移動距離と方向を見ると、第1回放流群では最も遠くで再捕されたのは、西側で約70km、東側で約60km離れている。それらは、2日後に曳縄、6日後に大型定置網でそれぞれ再捕されている。第3回放流群では東側で8日後に約50km離れた小型定置網で再捕されている。ところが、第2回放流群では、西側の放流地点近くで2週間以内にすべて定置網で再捕されている。

これらのことから放流直後の移動には、放流時の流況が大きく影響していることが窺える。

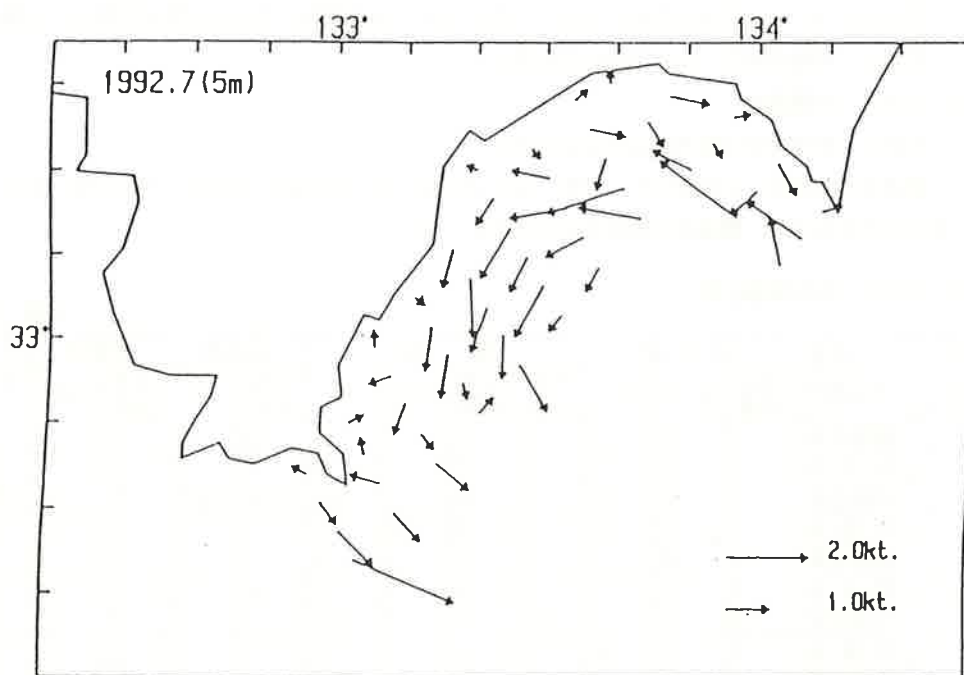


図10 7月上旬の土佐湾流況図

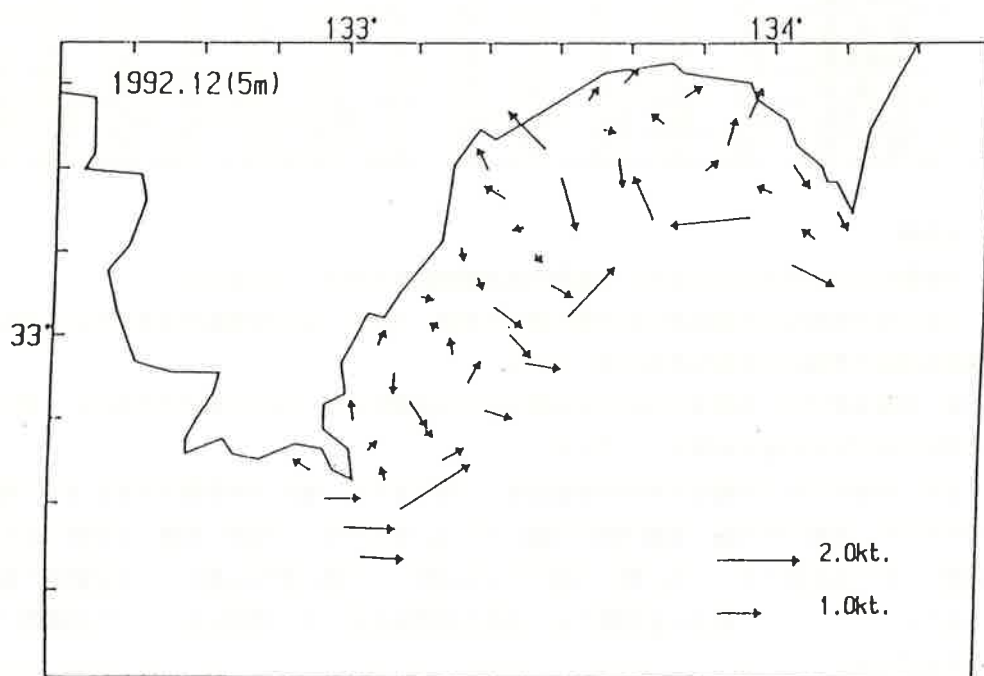


図11 12月上旬の土佐湾流況図